

氏名	高 福 男
学位(専攻分野)	博士(農学)
学位記番号	農博第1261号
学位授与の日付	平成14年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	農学研究科生物資源経済学専攻
学位論文題目	地域農業投資の役割とマネジメントに関する研究 ——地域農業活性化の観点から——

論文調査委員 (主査) 教授 稲本志良 教授 吉田昌之 教授 加賀爪優

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、地域農業活性化を図っていく上で重要な役割を果たす投資のもつ意義と役割を明らかにすること、更に、地域農業経営管理論的視点から、その役割を効率的かつ持続的に果たすための地域農業投資マネジメント・サイクルを提示し、その各段階における分析・評価のあり方に関する検討を行うことを課題としている。

序章では、地域農業投資マネジメント・サイクルに沿った計画—実施—評価(Plan-Do-See)の各段階に最も重要であり、かつ、その分析・評価が必要とされる主要課題として、計画段階における投資水準分析、実施段階における投資対象事業の選択に関わる重要度評価分析、投資による経済効果分析、評価段階における投資後の運営改善策の模索とその改善策の実行による運営改善効果分析の四つを提示している。

第1章では、地域農業活性化及び地域農業投資の概念規定を行うとともに、個別農業経営の労働力構造、農作業受委託状況の変化から、地域農業次元の投資に注目することの重要性を明らかにしている。また、地域農業主体の対応如何によって活性化の程度に地域間格差が生じることから、地域農業投資に対するマネジメントの必要性を明らかにしている。

第2章では、地域農業投資をその財・サービスの性格と目的によって分類するとともに、地域農業投資の特質に関する考察を通して、それらに対する公的支援の妥当性を検討している。また、様々な性格の投資・管理主体の行動様式についての考察を行い、対象財・サービス別にみた望ましい投資・管理主体を示している。

第3章では、地域農業投資を土地改良事業、共同利用施設、農業公社の3つに分けて、それぞれに関する先行研究のサーベイを行い、地域農業経営管理論的視点からのマネジメント・サイクルに沿った研究の必要性を明らかにしている。

第4章では、投資対象財・サービスの受益者である個別農家の便益評価に基づいた地域農業投資の水準分析に関する理論的検討を行った上で、その便益評価分析手法としてCVM(Contingent Valuation Method)を援用して、兵庫県但東町が地域農業活性化を目指して計画を進めている「農業支援センター」(仮称)を対象にして行ったアンケート調査結果を用いて、投資水準の分析を具体的にを行っている。また、地域農業投資に対する支払行動関数を推定して、農家属性別の各投資対象事業に対する行動パターンを明らかにしている。

第5章では、投資対象事業の選択基準として従来から重視されてきている投資効果基準の他に、地域資源の活用・保全、投資の緊要度及び実行可能性といった経済的・社会的条件を反映する複数の基準を設定して、それらを事業の利用主体と投資・管理主体の双方から総合的に評価可能なモデルを、AHP(Analytic Hierarchy Process)を援用して提示するとともに、現在、兵庫県但東町が計画を進めている「農業支援センター」を対象に分析を行い、投資対象事業別の優先順位を具体的に明らかにしている。

第6章では、投資による地域内経済効果の分析において、地域内産業間の連関関係を通して現れる経済効果に注目する必要性を指摘した上で、兵庫県但東町を対象に市町村レベルでの地域産業連関表を作成し、それをを用いた分析を通して地域農業投資による直接効果と、所得増加が家計消費を経由して現れる間接効果を分析して、投資対象としての地域農業の重要性

を具体的に明らかにしている。更に、地域内経済構造を反映した地域産業連関分析によって、従来、定性的分析に留まっていた農村地域における農業の基幹産業としての位置付けを定量的分析によって明らかにしている。

第7章では、地域農業投資の投資後の運営改善策としての組織的調整手段と市場的調整手段について考察を行うとともに、インセンティブ提供の観点から、市場的調整手段による改善に注目して、その一つである差別料金体系に関する理論的考察を行い、その特徴を明らかにしている。更に、実際に差別料金体系を運営改善策として導入した滋賀県下のカントリーエレベーターを対象に、その運営改善効果を明らかにして、運営改善における組織的調整手段と市場的調整手段の併用の必要性を指摘している。

終章では、マネジメント・サイクルの各段階の分析で得られた結果を要約し、地域農業投資のマネジメント主体が講ずべき基本的な対応課題について指摘している。

論文審査の結果の要旨

近年、わが国の多くの農村地域において、地域農業の活性化を図っていく上で、地域農業の基礎構造の改善のために行われる投資が、極めて重要な役割を果たしている。その地域農業投資が有効に役割を発揮するためには、地域農業投資のマネジメント・サイクルにおける各段階での的確な分析・評価が不可欠であり、その分析・評価のあり方も、投資・管理主体にとって極めて重要な課題である。

本論文は、市町村行政機関によって行われる地域農業投資に焦点を当てて、地域農業の経営管理論的視点から、計画段階における地域農業投資の水準、実施段階における投資対象事業の選択、投資による経済効果、評価段階における投資後の運営改善策の模索とその実行による運営改善効果に関する分析方法を、理論的な検討と具体的な事例によるその現実適用可能性の検討を通して提示することによって、上記の課題に接近している。本論文において、特に評価すべき点は以下の5点に要約できる。

1) 従来の多くの研究が、地域農業投資マネジメント・サイクルの特定の一つの段階に関する分析・評価方法に注目してきたのに対して、本研究では、マネジメント・サイクルの一連の段階各々の分析・評価方法に注目することの意義と必要性を理論的に明らかにし、その提示を行っている。

2) マネジメント・サイクルの各段階の分析・評価方法を単に理論的検討を通して提示するだけでなく、その分析・評価方法を具体的な事例の分析に適用することを通して、その実践的な適用可能性を高めている。

3) 個別農家の便益評価に基づいた計画段階における地域農業投資の事前評価モデルを提示した上で、具体的な事例を対象に分析を行い、妥当な地域農業投資の水準、投資対象事業に対する農家属性別の行動パターンを明らかにしている。

4) 実施段階における投資対象事業の選択問題について、その考え方と考慮すべき基準を理論的に検討して、それらの考え方と基準を反映することができ、かつ、現実に適用可能な総合的評価モデルを提示し、具体的な事例を対象に投資対象事業別の重要度を評価し、地域の経済的・社会的条件を反映した優先順位を明らかにしている。

5) 投資後の運営改善策における組織的調整と市場的調整の意義を吟味して、これまで重視されてこなかった市場的調整手段の一つである差別料金体系の有効性を明らかにすることによって、運営改善における組織的調整手段との併用の必要性を指摘している。

以上のように、本論文は地域農業投資の効率を高め、持続させるために地域農業経営管理論的視点から、マネジメント・サイクルの各段階における課題に対する分析・評価方法を理論的検討を通して提示し、更に、具体的な事例に対する適用を試みることによって、その実践的な適用可能性を高めており、地域農業経営管理論、地域農業投資論、地域農業論の発展、及び地域農業の維持・発展に寄与するところが大きい。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成14年2月18日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。